

## 支部便り

## 中国四国支部第15回支部講演大会の開催報告

## Report on the 15th Annual Meeting of Chugoku Shikoku Branch of the Japan Institute of Light Metals

日野 実

Makoto HINO

2023年10月14日(土)に、中国四国支部第15回支部講演大会が鳥取県鳥取市の鳥取大学工学部にて開催された。本大会は軽金属に携わる中国四国地区の支部会員が一堂に会し、各々の研究について活発な議論を行い、交流を広げるための会である。本講演大会は、学術交流だけではなく、研究者の教育・研究意欲の増進ならびに若手の育成を目的として2009年に仲井元支部長が発案され、第1回目が愛媛大学で開催されてから、今年で15回目を迎えた。コロナウイルス感染症が2類から5類に移行され、対面で開催するとともに、講演大会終了後には4年ぶりに懇親会も開催され、コロナ禍以前の形態に戻ることができた。

講演大会への参加者は45名で、昨年度に引き続き、コロナ禍以前の対面で行った大会での参加者よりわずかに減少した。講演件数は学生の発表が18件、社会人の発表が4件の計22件で、講演件数はコロナ禍以前よりもやや少なかった。講演大会開催に先立ち、支部長より挨拶が行われた。講演大会は2会場で実施され、初めて学会発表を経験する学生の姿が多く見られたのも本講演会の特徴のひとつで、質疑応答ではしどろもどろになりながらも一生懸命こたえようとしている学生も見られ、大変よい機会になったのではと感じられた。すべての研究発表が終了後、香川大学の田中康弘先生より「純Tiの変形転位組織に対する引張りずみ速度と酸素濃度の影響」と題した基調講演が行われ、参加者一同、興味深く拝聴した(図1)。田中先生は長年にわたり当支部で活躍され、支部の発展に貢献された。その功績を讃え支部特別功労賞が贈呈された。

本講演会では、優秀な研究発表に対する表彰制度が設けられており、学生・院生には“優秀講演賞”が、社会人には“研究・開発奨励賞”が授与されている。各発表に対して3名の審査員が評価し、厳正な審査の結果、今年度の優秀講演賞には以下の6件が選考された。

「Ti-20Nb合金の焼戻しにおける相変化の時間依存性」

岡山大学 尾形 陸斗

「Ti-Mo合金における $\alpha$ 相の析出形態が機械的特性に及ぼす影響」

岡山大学 中野 政秀

「マイクロ/ナノSiO<sub>2</sub>を添加したAZ91Dマグネシウム合金射出成形品の組織と機械的特性」

岡山県立大学 秀嶋 保利

「高酸素チタン合金のレーザ積層造形と組織・力学特性」

鳥取大学 黒田 勇翔

「レーザ積層造形したチタンの組織と機械的性質に及ぼす造形雰囲気の影響」 鳥取大学 森 智矢  
 「各種陽極酸化処理が5052アルミニウム合金の接着性および耐食性に及ぼす影響」 広島工業大学 杉田 翔英  
 また、研究・開発奨励賞には  
 「粒子-マトリックス界面の熱抵抗を考慮した有効熱伝導率に及ぼす粒径分布の影響」 岡山県立大学 尾崎 公一  
 「Mg-Al-Zn系合金の湿潤大気中での脆化挙動に及ぼす熱処理や表面処理の影響」

新居浜工業高等専門学校 真中 俊明、喜馬慎一郎  
 広島工業大学 日野 実

が選考された。基調講演終了後に催された懇親会のなかで表彰式が行われ、優秀講演賞、研究・開発奨励賞の発表および支部長より賞状が授与された。皆様の受賞をお祝いするとともに、今後のご活躍をお祈り申し上げます。懇親会の最後には受賞者を囲んで集合写真(図2)を撮影し、講演大会が無事に終了した。なお、来年度の支部講演大会は広島大学での開催を予定している。

最後に、今回の講演大会をお世話いただいた鳥取大学の陳先生、音田先生、協力いただいた学生に心より感謝申し上げます。

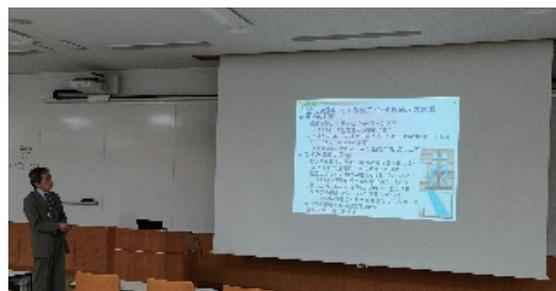


図1 田中先生による基調講演



図2 表彰者を囲んでの写真